2019年10月10日

報道関係者各位　御中

認定特定非営利活動法人DPI日本会議

議長　平野みどり

**全国一斉行動！UDタクシー乗車運動の取材のお願い**

　2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控え、車いすで乗車できるUDタクシーの普及が進んでいます。政府はUD2020行動計画で重点的なバリアフリー整備として2020年の東京23区内で25％のUDタクシーの実現を目指していますが、東京のみならず全国でも普及が進んでいます。

国交省は車いす利用者の乗車拒否が多発したことから、事業者に対し、2018年11月に通達を出しましたが、現在でもUDタクシーの車いす乗車拒否は後を絶ちません。2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは海外からも多くの車いす利用者の来日が予想されることから、この乗車拒否が多発する状況の改善が急務となっています。

そこで、実際に多様な車いす利用者が乗車することを通して、乗車拒否の実態把握と、乗車するためのバリアがどこにあるか調査し、その結果をまとめ、事業者、メーカー、国交省等へ改善を働きかけを行う、「全国一斉行動！UDタクシー乗車運動」を企画しています。

つきましては、ぜひともこの全国一斉行動の様子を取材しにきていただきたいと思います。私たちは、東京2020オリンピック・パラリンピック大会を契機として、障害者への理解や社会全体のバリアフリー化が進み、真の共生社会が実現することを願っています。ご多忙の折、大変恐縮ですが、よろしくお願い申し上げます。

なお、この取り組みの詳細につきましては、同封したチラシをご覧ください。

記

**日時**　東京2020パラリンピック開催300日前の10月30日（水）

**場所**　全国各地

**内容**

1. 車いす利用者100名（全国）が、UDタクシーに乗車するために、どのくらい拒否され、乗車にどのくらい時間がかかるのか等を調査します。乗車にあたってのバリアがどういう点にあるか集約しています。
2. 集めたデータを元に、メーカーには車両の改善を、タクシー会社と全国ハイヤー・タクシー連合会には接遇の改善を、国土交通省等にはUD車両認定基準を含めた改善を求めます。

**方法**

* ①流し、②タクシー乗り場、③電話での配車、の３つの方法で乗車します。
* 乗車できたか、乗車できるまでに何台拒否されたか、乗り込むまでに何分かかったか、乗車するためのバリアがどこにあるか等を調査します。

**対象**

* 車いすを利用している人。手動車いす・簡易電動車いす・電動車いす（本人も含めた総重量200kg以下）。

※現在UDタクシーとして認定されている車両（日産NV200・セレナ、トヨタジャパンタクシー）はスロープの耐荷重が200kg以下のレベル1で設定されているため、車いすと本人を含めた総重量200kg以下の方に限定して調査します。（DPIとしては、この200kgという基準が実態に合っておらず、耐荷重300kg以上への認定基準の改正が必要だと考えています。）

**問合せ先：DPI日本会議（佐藤）**

**主催**

認定特定非営利活動法人DPI日本会議

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-11-8 武蔵野ビル5階

電話 03-5282-3730　ファックス 03-5282-0017　メールアドレス　office@dpi-japan.org